

# 平成25年度第1回くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会

日 時：平成25年5月9日（木）午後7時00分～

場 所：ウェルパルクまもと 4階会議室

## 会 次 第

### 1 開 会

### 2 議 事

- (1) 平成24年度の振り返り
- (2) 平成25年度からの取り組みについて
  - ・ 事業計画について
  - ・ 多職種連携研修会について
  - ・ 病院－在宅連携強化に向けて
- (3) その他

### 3 閉 会

## ① くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会

### 委員 8名

(医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション連絡協議会、居宅介護支援事業所協議会  
地域包括支援センター、在宅療養支援診療所、急性期病院連携室)

### ○多職種連携に関する課題

#### 専門職間の連携(相互理解)

- 医師とケアマネの連携
- 病院スタッフの在宅への理解不足
- 在宅医療提供体制が脆弱

#### 情報不足

- 患者の状態悪化時などの情報共有とタイムリーな連携
- 在宅医療資源の情報(薬局、歯科など)
- 患者(利用者)の在宅医療や介護に対する理解不足

人材不足

急変時の対応

## ② くまもと在宅医療・ケア支援センターの設置

### 1.在宅医療相談窓口

- ・ 患者、家族からの在宅医療に関する悩みや不安に関する相談への対応
- ・ 医療・介護関係者からの地域の医療・介護資源に関する問合せへの対応 等

### 2. 情報収集・発信

- ・ 医療資源マップ、介護資源マップの作成と情報発信 等

### 3. 多職種連携の支援

- ・ 多職種連携に関する研修会の開催（1月18日、3月14日） → H25年度は区毎のエリアへ

### 4. 市民啓発

- ・ ポスターの作成、市政広報テレビ番組の活用 等

## 在宅医療・介護に関する具体的取り組み(平成24年度、平成25年度)

	熊本市	熊本県
平成24年度	<p>①くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会の開催</p> <p>課題の整理、施策の方向性、具体的な連携策などについて検討。</p> <p>②くまもと在宅医療・ケア支援センターの設置</p> <p><b>在宅医療相談窓口</b></p> <p>市民や関係者からの在宅医療に関する相談に対応。</p> <p><b>情報収集・発信</b></p> <p>医療機関の取り組み状況を調査し、ホームページ上で公開。</p> <p>くまもと医療都市ネットワーク情報センター 在宅医療 <input type="button" value="検"/></p> <p><b>多職種連携の支援</b></p> <p>・多職種連携研修会の開催 (2回開催、参加者数延べ279名) 多職種に及ぶ在宅医療・介護関係者が一堂に会し「顔の見える関係」を構築することにより、連携強化を図る。</p> <p><b>市民啓発</b></p> <p>・市政広報テレビ番組により、在宅療養生活の様子等を紹介。 ・在宅医療の普及啓発ポスターの作成・配布。</p> <p>③厚生労働省補助事業「在宅医療連携拠点事業」</p>	<p>1. 基盤づくり</p> <p>①熊本県在宅医療連携体制検討協議会の開催</p> <p>医療、介護、福祉、行政等の「多職種」で、課題の整理、施策の方向性、具体的な連携策などについて検討。第6次保健医療計画の在宅医療分野を検討・策定。</p> <p>②在宅医療にかかる医療介護福祉連携体制検討会の開催</p> <p>H25.2.24開催。230名程度(各圏域から15～20名)参加。圏域ごとにグループを設け、多職種で討議を実施。25年度は各地域で検討を継続。</p> <p>③モデル事業の実施(熊本市、玉名郡市医師会)</p> <p>在宅医療を推進するため、市町村や郡市医師会を中心とした連携体制を構築するモデル事業を実施。熊本市、玉名郡市医師会を中心に実施。</p> <p>④人材育成、体制整備に関する各種事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーションサポートセンター事業</li> <li>・訪問看護ステーション強化モデル事業(球磨・天草)</li> <li>・潜在看護師を対象とした訪問看護リカレント研修</li> <li>・訪問看護ステーションへの運営補助(阿蘇、水俣・芦北)</li> <li>・在宅療養支援体制づくり事業(3団体)</li> </ul> <p>2. 県民の意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ、新聞等により、たまな在宅ネットワーク、青磁野リハビリテーション病院、県看護協会などの取り組みを紹介。3月26日に鳥越俊太郎氏をコーディネーターにシンポジウムを開催。</li> <li>・ホームページ「熊本地域医療ステーション」を平成25年2月に開設。</li> </ul>
平成25年度	<p>①くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会の開催</p> <p>課題の整理、施策の方向性、具体的な連携策などについて検討。</p> <p>②くまもと在宅医療・ケア支援センターの運営</p> <p><b>在宅医療相談窓口</b> (継続)</p> <p><b>情報収集・発信</b> (継続)</p> <p><b>多職種連携の支援</b></p> <p>・地区ごとの多職種連携研修会の開催 区ごとのエリアを目安に、各地域におけるより多くの専門職の「顔の見える関係づくり」を進めるとともに、各専門職の資質向上を図る。(別添:資料3)</p> <p>・病院—在宅連携強化 公的病院等地域連携協議会や回復期・維持期を考える会等と連携し、病院と在宅の連携強化を図る。(別添:資料4)</p> <p><b>市民啓発</b></p> <p>・在宅医療の普及啓発リーフレット等の作成・配布。 ・出前講座の実施</p> <p><b>その他</b></p> <p>・在宅医療サービスを支えるバックアップ体制の検討 モデル地域において入院医療機関(病院・有床診療所)の連携による在宅療養の急変時に対応できる緊急用のベッド確保を目指す。</p>	<p>1. 基盤づくり</p> <p>①多職種による在宅医療の連携体制構築に向けた検討【全県版】</p> <p>H24年度～ 医療、介護、福祉、行政等の「多職種」で、課題の整理、施策の方向性、具体的な連携策などについて検討。</p> <p>②多職種による在宅医療の連携体制構築に向けた検討【地域版】</p> <p>H25年度～ 圏域ごとに、上記①と同様の会議を設置。まず、多職種による「顔の見える関係」「信頼関係」の構築に取り組む。会議では、課題の整理、具体的な連携策などの検討を実施。地域の実情に応じて、情報の共有化、連絡体制の整備、共通のルールづくりなど、できるところから、それぞれの団体、関係者において着手する。</p> <p>③体制整備、人材育成</p> <p>地域の実情を踏まえて、多職種による合同研修、医師の訪問診療同行研修、訪問看護ステーション等立ち上げ支援、在宅歯科医療確保対策などを展開。</p> <p>2. 県民の意識啓発</p> <p>多職種による連携事例をはじめ、終末期医療や看取りに関する広報を通して、在宅医療を自らの問題として考えることの必要性などを広く県民に周知啓発を展開。</p> <p>3. その他</p> <p>H25年度～H27年度 地域医療再生基金を活用して在宅医療の推進に係る事業を実施予定。(別添:資料5)</p>

## 在宅医療・介護に関わる多職種連携に向けた取り組み(案)

## 取り組みの方向性

在宅医療・介護に関わる医師・訪問看護師・ケアマネージャ等の専門職の顔の見える関係づくりを進め、実際に在宅医療を提供する地域内の多職種連携体制を構築するとともに、地域内の課題解決に向けて協力して取り組んでいく体制づくりを目指す。

## これまでの取り組み

在宅医療に係る医療介護福祉連携検討会(地域リーダー研修)【県全域】 H25.2月(県主催)

在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会を開催【市全域】 H25.1月、3月(市主催)

## これからの取り組み

研修会参加者

## 熊本市多職種連携連絡会(仮称)

(役割)

- ・各専門職が互いの職種の役割を認識することにより、よりよい連携を図る。
- ・在宅医療・介護に関して市全域で協議が必要になった場合の協議の場とする。
- ・市全域の多職種の親睦の場とする。

## 地区多職種連携連絡会(仮称)

中央地区

東地区

西地区

南地区

北地区

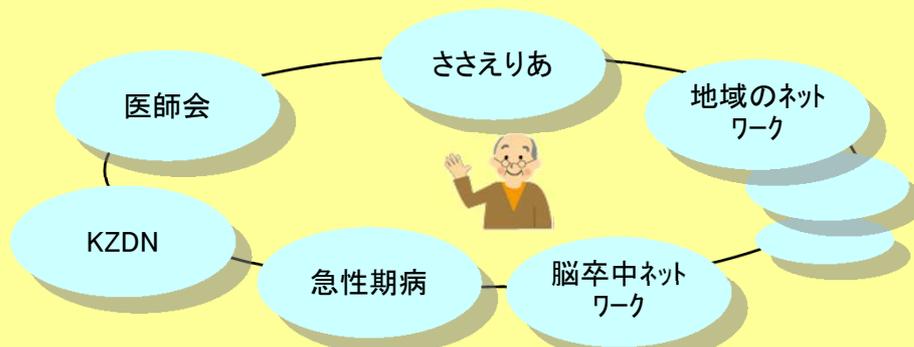
熊本市域においても、地域ごとに医療資源や介護資源に違いがあるため、熊本市多職種連携連絡会には、各地区ごとに地区連絡会を置くこととする。

(役割)

- ・地区の医療・介護資源の把握により、互いの連携の始まりとする
- ・地区ごとの研修会の開催に関する企画等(研修会の進め方、テーマ、参加者など)
- ・地区における課題整理、解決に向けた方策などに関する意見交換の場とする
- ・地区の多職種の親睦の場とする。

## 例えば、〇〇地区

多職種連携の大きな輪や小さな輪が地区内の隅々までいきわたるイメージ



それぞれの地区内には、すでに多職種連携に向けた取り組みを進めているところやこれから取り組みを始めようとしている地域もある。そのような先進的な取り組み状況を地域内で情報共有することにより、地域内の活動の活性化を図る。

目的

在宅医療・介護に関わる医師・訪問看護師・ケアマネージャ等の専門職の顔の見える関係づくりを進め、実際に在宅医療を提供する地域内の多職種連携体制を構築するとともに、地域内の課題解決に向けて協力して取り組んでいく体制づくりを目指す。

スケジュール

	イベント	検討事項
5月		
第3週	医師会地区担当理事へ相談	地区での進め方
第4週	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f9cb9c;">地区多職種連携連絡会の立上げ</div> <p>【役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の医療・介護資源の把握により、互いの連携の始まりとする</li> <li>・地区ごとの研修会の開催に関する企画等(研修会の進め方、テーマ、参加者など)</li> <li>・地区における課題整理、解決に向けた方策などに関する意見交換の場とする</li> </ul>	(会合または個別訪問) 【テーマ】 事例検討、課題整理・解決策の検討、その他、、、 【参加者の集め方】 関係団体または個別事業所への呼びかけ、、、
下旬	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f9cb9c;">参加者募集</div> <p>(募集期間)2週間程度</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f9cb9c;">資料等の作成</div>	
6月		
後半	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f9cb9c;">開催</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         日時:                          会場:                          テーマ:                          参加者:                     </div>	

## 病院－在宅連携強化に向けて

## 目的

入院早期からの退院支援や病院スタッフの在宅医療に対する理解が求められており、病院と在宅の連携強化を進めていくことによって、より円滑で継続的な医療体制の確保を目指す。

## これまでの動き

- ◎公的病院等地域連携協議会(G8)  
熊本市における地域包括ケアシステムについての講演  
急性期病院からの意見「ケアマネや包括と病院が1対1でやり取りすることはできない」  
⇒体制づくりやルールづくりが必要？
- ◎熊本市医師会と市内公的病院連絡会議  
議題「地域包括ケアシステムにおける公的病院の役割について」  
議題「高齢者(終末期)の救急受入れの現状について」
- ◎回復期・維持期を考える会等への参加  
シンポジウム「熊本における地域包括ケア体制をどうしていくか？」  
二次医療圏コーディネーターの必要性

## 他都市の取り組み(兵庫県など)

## 1. 現状調査

退院調整の現状(退院調整率を把握)  
対象:ケアマネ

## 2. ネットワークづくり

## ◆病院のネットワーク

地域医療連携室を中心として  
急性期病院、回復期病院、療養型病院

## ◆在宅のネットワーク

地域包括支援センターを中心として

## 3. 協議

## (1)退院調整の手順について

- ①ケアマネ、かかりつけ医の求める退院手順
- ②病院側からの修正意見

⇒お互いに納得する退院手順のルール化

## (2)退院時の情報提供

- ①病院の負担にならない範囲で、在宅側が欲しい情報をまとめる
- ②病院側とすり合わせ

⇒情報提供の内容を統一

## 4. ルールの検証など

定期的な会合を開き、運用状況等の確認